

# 序

人文学部長 酒井 恵 真

札幌学院大学は北海道の大地に歴史を刻んで、はや50年が過ぎた。本学は敗戦後の精神的虚脱感を拭って、平和と学問を求めた青年達が、学ぶ者のための学校を手作りで始めた、札幌文科専門学院（1946年創立）を出発としている。それは「リベラルアーツの精神」の下、「学の自由、独創的研鑽、催性の尊重」を学風とし、北海道に「文化の息吹を」の情熱に支えられていた。しかし、高邁な精神をバックボーンとしつつも、その現実経過は順風満帆ではなかった。教職員、学生は早くから「札幌文科大学」の実現を望んだが、札幌短期大学（1950年創立）を経て「大学」に至るには、実に22年を必要とした。その間の、様々な困難と挫折を乗り越えてきた学生、教職員の奮闘努力の物語なくして、札幌学院大学の今日はありえない。

生みの苦しみを乗り越えて、札幌商科大学は1968年に商学部商学科でスタートした。その後は76年に経済学科を、翌77年に人文学部人間科学科、英語英米文学科と商学部二部を、84年には法学部を開設して、大学名称も札幌学院大学と改称した。さらに91年には経済学科の学部昇格と同時に社会情報学部を開設し、95年には大学院法学研究科を設置するなど、拡張・拡大が図られてきた。

人文学部は、本学2番目の学部として開設され、今年で20年を迎えた。本道初の人文学部は「人間の総合的な研究を通じて、北海道の福祉と文化の向上に資するユニークな人材の育成」を目指し、「リベラルアーツの精神」を最も良く受け継いだ、その卓抜な構想に多くの期待が寄せられた。この間に、3300人余の多彩な卒業生を世に送り出した。共に学び、考え、模索した彼らは、全国各地で「人間」的現実を見詰めて、人間への深く豊かな理解を糧に、さまざまな場面で活躍しているものと確信する。人文学部の20年はここに凝縮されている。

しかし、20年を経た今月、本学は6学部7学科5000人余の学生を擁する規模となり、道内にも類似学部が多数設置された。また、全国で3番目と注目された人間科学科も、全国の8大学に人間科学部が設置され、人間を冠する学部・学科はその数倍に達したことでその稀少性は減じた。一方地球規模で進展する国際化、情報化、高齢化のメガトレンドが押し寄せる中で、「人間」を総合的に捉えることの重要性は益々高まっている。「人間」を研究・教育の旗印とする本学の人文学部は、その独自性と真価が一層問われようとしている。本号では「人間科学の現状と課題」を明らかにする特集を組み、引続き英語英米文学を中心とする特集が組まれることになっている。

我々は歴史を振り返りつつ、新たな門出を期して、ここにささやかな論集を編んだ。札幌学院大学と人文学部の、さらなる歴史の礎石とならんことを祈念する。